

柏崎発 医療最前線

国立新潟病院の研究

柏崎市赤坂町で、小児慢性疾患や進行性筋萎縮症（筋ジストロフィー）などの専門的医療に対応する国立病院機構新潟病院。実は国の研究機関でもあり、さまざまな臨床研究に取り組む。今月はメディア向けに成果発表会を開き、病院の研

究内容を市民に伝える展示会も行った。ちだからこその実用的なものばかり。柏崎市から世界への貢献を目指す最前線の研究を紹介する。

頬指の微動カメラ認識

障害者、機器操作可能に

等事業の対象となり、市内の人は「仕事や教育支援など広運動障害者が使えるようにない場面でも使ってもらえるようになった。新潟病院はこれを機に、柏崎市から世界全国の自治体への普及を目指し、貢献したい」と意気込む。今後は、使い始める時の新潟病院はAAG I以外に設定時間の短縮や、より多くの中島孝院長(65)は「地域に研究成果を紹介する機会が足りなかつた。今後は知ってもらい、研究を役立ててもらいたい」と話している。

レースゲーム「マリオカート」のテレビ画面で、人気キャラクターが激しいカーレースを繰り広げる。操作する人の手にコントローラーはない。右の頬を少し上げただけで、画面の中の車が右に曲がった。

非接触型スイッチ AAG I

医師 西田 大輔さん(45)

これまで運動障害者が機器を操作する時は、ボタン式や息でセンサーが反応するスイッチなど、作業療法士が一人一人に合わせて調整していた。しかし、患者が席を離れると、もう一度設定するのに時間がかかったり、運動機能の低下が進むとスイッチを作り直す必要があったりした。反応時間の遅さや誤作動もネックだった。



AAG Iについて説明する国立病院機構新潟病院の西田大輔医師＝柏崎市文化会館アルフォーレ

これまで運動障害者のデータの蓄積が少なく、20年度までに81人から1745の動きのデータを集め、指の折り曲げや口の開閉、ウインクなどを9種類に分類した。市販の3Dカメラがこれらの動きを認識することで、直接パソコンを操作したり、リモコンに接続して部屋の照明をつけたりすることができるようになった。

◇ ◇ ◇ 新潟病院に長期入院している運動障害のある30代の男性は、マリオカートやバーチャル世界を楽しむ「マイクラフト」などをAAG Iを使って試した。男性は「人の手を借りずに、好きな時に使える」

◇ ◇ ◇ 新潟病院に長期入院している運動障害のある30代の男性は、マリオカートやバーチャル世界を楽しむ「マイクラフト」などをAAG Iを使って試した。男性は「人の手を借りずに、好きな時に使える」



AAG Iを使う男性とレースゲームの一場面（国立病院機構新潟病院のホームページで紹介するユーチューブ動画より）

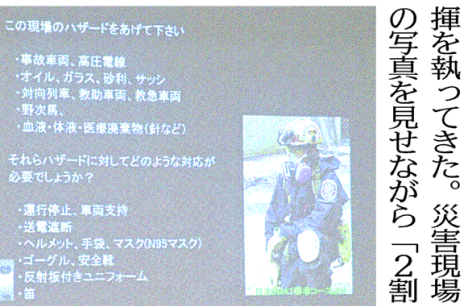
「重症者声出せない」

柏崎で東京曳舟病院副院長が講演

災害医療 トリアージ重要性説く

災害時の救命救護に関する講演会が、柏崎市日石町の市文化会館アルフォーレで開かれた。災害医療の経

（柏崎市赤坂町）がえんま市に合わせた行った研究発表イベント「#O24Uイノベーション」の一環として15日に開いた。災害対応に關わる医療関係者や消防士ら約80人が参加した。



は想定外のことが起こる。そのときにどう対応するか

が重要だ」と説明した。また、助けを求める声の大きい人から搬送したことで、重症化している人に気付くことができなかつた事例を挙げ、誰から助けるか優先順位を考えるべきとした。「本当に助けを求めている人は声すら出せない。声なき声を探そう」と呼びかけた。



災害時の対応について講演する秋富慎司医師＝柏崎市文化会館アルフォーレ

避難所では性被害も多数報告されていることから、秋富医師は子どもや女性に防犯ブザーを配布したと説明し、「一人でトイレに行かないように」と訴えた。講演を聴いた柏崎市扇町の消防士大滝雄一郎さん(31)は「想定外の2割に対応できるよう、視野を広く活動する意識を持ちたい」と話した。